

第 23 回 企業交流会 (株)松浦機械製作所のご案内

【マネジメントの視点に基づく技術戦略としての品質工学のあるべき姿を探る】

第 23 回企業交流会を(株)松浦機械製作所において開催いたします。品質工学を効果的に活用するためには、マネジメントの視点から技術戦略として考えることが不可欠です。しかし、マネジメントの視点から品質工学を活用することが必ずしも実現できていないということが指摘されています。そこで、今回はマネジメントと品質工学との関わりということを考えて、マネジメントの視点から品質工学を主導し、その成果を確実にしている(株)松浦機械製作所において企業交流会を実施して、マネジメントの視点から技術戦略としての品質工学のあるべき姿について議論します。

参加を希望される方は必要事項記入の上、FAXにて事務局までお申し込みください。後日参加券をお送りしますので、当日受付にご提出ください。非会員の方の参加は事務局にお問い合わせください。

訪問先企業	(株)松浦機械製作所 福井県福井市漆原町 1-1 JR 福井駅よりバスで送迎, 集合時間 10:10(工場見学あり), 11:10(工場見学なし)
日 時	2012年4月27日(金) 11:00~17:30
プログラム	11:00 工場見学会 (希望者のみ) 12:00 昼食 12:40 開会挨拶 (品質工学会, (株)松浦機械製作所) 12:50 (株)松浦機械製作所における品質工学の取り組み及び会社紹介 13:05 講演「マネジメントのための品質工学の活用」 矢野 宏 応用計測研究所(株) 13:50 壇上発表「マネジメントの視点に基づく品質工学の取り組み及び課題について紹介」 松浦勝俊 (株)松浦機械製作所 龍田康登 トーヨーエイテック(株) 齊藤 潔 富士ゼロックス(株) 佐々木賢 (株)サン・アロイ 16:00 パネルディスカッション 「マネジメントの視点に基づく技術戦略としての品質工学のあるべき姿を探る」 司会: 吉澤正孝 クオリティ・ディープ・スマーツ有限責任事業組合 パネリスト: 壇上発表者 17:25 閉会挨拶 18:10~19:30 懇親会
定 員	50 名 (非会員の場合は, 事務局にお問い合わせください。)
締切日	2012年 4 月 6 日 (金) ただし定員になり次第締め切ります。
参加費	会員 9 0 0 0 円 (懇親会は別途料金): 請求書送付・事前振込をお願いします。
申込先	品質工学会事務局 FAX. 03-6268-9350 TEL. 03-6268-9355

FAX. 03-6268-9350 品質工学会事務局 行 <第 2 3 回企業交流会 申込書>

フリガナ 氏 名	勤務先
会員番号	所属
参加券送付先 (いずれかを○で囲んでください) 勤務先・自宅 (自宅御希望の方は自宅住所をご記入ください) □□□-□□□□ (郵便番号は必ずお書き下さい)	
TEL. FAX.	
工場見学 (いずれかを○で囲ってください) 参加する ・ しない	懇親会 (いずれかを○で囲ってください) 参加する ・ しない

第 23 回企業交流会の主旨

近年、研究発表大会で発表されている事例は、システムの全体最適というよりは部分最適と思われる事例が多く、不十分さが残るのは否めない事実である。その背景には、技術者が品質工学を活用しようとしても、マネジメント側からのサポートが十分でないことが一つの要因として指摘されている。

一方では、品質工学の活用・推進がマネジメント側の意思と関係を持たない状態で実施されているという声も聞かれる。

品質工学の活用を有効適切に実施するためにはトップダウンとボトムアップとがうまくかみ合わせる事が重要である。ボトムアップはある程度展開されているが、トップダウンの方が十分に展開されていないのではないかと懸念がある。

また、学会の側から品質工学の研究を見た場合、企業が行った研究に対して学会がそれを追認している形になりつつある。そのような形では学会が存在する意義が失われてしまうのではないかと懸念される。そのためには、学会が企業に先行する形で品質工学のあるべき姿を示し、それを企業側に活用してもらう必要があるのではないかと懸念される。

さらに、吉澤正孝により技略の研究が深められているし、松原秀之によりインライン品質工学について提案が行われている。しかし、これらについて学会内で活発な議論が行われていない。これらを企業で活用されることにより、今後、研究がますます進展することが期待される。したがって、品質工学は企業のマネジメントを行う上で問題となる技術課題を効率的かつ有効適切に克服できるという原点に立ち返って考えるべきであろう。

学会が 20 周年を迎えるに際し、今後学会が歩むべき方向として、マネジメントの視点から品質工学の活用を考えることが求められている。今回実施する第 23 回企業交流会では、経営者懇談会のように品質工学の有効活用を図るようにマネジメントのあり方を考えるのとは異なり、逆に、マネジメントの視点から技術戦略としての品質工学を有効適切に活用するという事に主眼を置いている。そこで、マネジメントの視点から品質工学を主導し、その成果を確実にしている企業である(株)松浦機械製作所において企業交流会を実施して、同様に品質工学を積極的に推進している企業の経営者に壇上発表してもらう。そして、パネルディスカッションでは、壇上発表の内容を踏まえた上で、さらに第 4 回技術戦略研究発表大会における発表と成果も加えて、マネジメントと品質工学の関わりについて議論を行う。

壇上発表のテーマ名

- (1) 中小企業における品質工学推進活動の総括と今後の課題
(株) 松浦機械製作所 松浦勝俊
- (2) マツダにおける品質工学の取り組みとマネジメントの課題
トーヨーエイテック (株) 龍田康登
- (3) 富士ゼロックスにおけるマネジメントの視点に基づく品質工学の取り組み及び課題
富士ゼロックス (株) 齊藤 潔
- (4) サン・アロイにおけるマネジメントの視点に基づく品質工学の取り組み及び課題
(株) サン・アロイ 佐々木賢